

令和4年度 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施（いきいき長寿保健事業）について

1 趣旨

令和2年度から開始した本事業について、令和4年度の実施状況を報告するもの。

2 事業内容

(1) 目的

高齢者の多様な心身の課題に対応したきめ細やかな支援を実施し、フレイル予防と病気の重症化予防、QOL（生活の質）の維持・向上を図り、健康寿命の延伸につなげる。

(2) 対象者・支援内容

【ハイリスクアプローチ】

・対象者：令和3年度後期高齢者健診受診者のうち、75～80歳の者で以下に該当する者

低栄養	BMI22未満かつ6ヵ月で2～3kg以上の体重減少がある者
口腔機能低下	「①かつ②」、「①かつ③」、「②かつ③」のいずれかに該当する者 ①かたいものが食べにくい ②汁物などでむせる ③6ヵ月で2～3kg以上の体重減少がある
生活習慣病予防	受診勧奨判定値のうち重症度の高いレベルの医療未受診者

・支援内容：訪問、電話等による低栄養・口腔機能低下・生活習慣病重症化予防の相談・指導

【ポピュレーションアプローチ】

・参加者：ふれあいサロン（高齢者の集いの場）の参加者

・支援内容：フレイル予防の講話（フレイル全体、低栄養、口腔機能低下の3パターン）、フレイルチェック（指輪っか、噛む力、10品目チェック、口腔機能チェックなど）

(3) 実施結果（令和5年1月31日現在）

【ハイリスクアプローチ】

単位：人

	訪問	電話	その他	合計	高齢者相談センターと連携した件数
低栄養	27	21	3	51	5ケース ・夫の介護疲れにより、身体・精神的フレイルがみられるケース。 ・その他、4ケースは将来的に支援が必要と判断したケース等を情報提供。
口腔機能低下	19	33	2	54	
生活習慣病予防	6	46	3	55	
合計	52	100	8	160	

【ポピュレーションアプローチ】

実施したサロン数：23か所、実施者数：306人、フレイルを知っている人の割合：55.8%

3 事業評価

ハイリスクアプローチでは、ここ数年間HbA1cが上昇し続け、令和2年度からは10%を超え、尿糖も陽性となっている者を受診につなげることができた。重症化リスクのアセスメントを行い、対象者の反応、解釈を受け止めた上で、医療の必要性を伝えることができた。

ポピュレーションアプローチでは、フレイルを知っている人の割合が前年度より14.7%、実施者数も182人増加し、フレイル予防について普及啓発を図ることができた。

4 今後の取組み

(1) ハイリスクアプローチ

対象者のフレイル状態をアセスメントし、治療や介護サービスが必要と判断した対象者を医療や介護など適切な関係機関へつないでいく。

(2) ポピュレーションアプローチ

高齢者相談センターと連携し、ふれあいサロン等に出向いてフレイル予防の普及啓発に努めていく。

(3) 医療・介護の関係機関との連携

心身に多様な課題を持つ高齢者に対しては、医療、介護、福祉、生活支援等、様々な分野と連携し、支援を展開していくことが必要となるため、今後もフレイル予防や重症予防に必要な検査項目や服薬管理の視点を情報共有し、医療・介護の関係機関の皆様と連携・協力を図り、事業を進めてまいりたい。